

福山中・高等学校 中高一貫シラバス（期間指導項目・評価）

教科	理科	科目	期間	1学期前半（中間試験）
中高・学年	中学校・1年	授業時数 期間/年間	14 / 105	教科書
副教材 1	理科グラフィック資料集(新学社)	副教材 2	実力錬成キスト 中学理科1(文理)	副教材 3
				理科1年 通のまとめ(五ツ書房)

年間の到達度目標	自然に対する関心を深め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を身に付けるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方ができる。
----------	---

到達度目標 (含定期テスト)	簡単な野外観察や顕微鏡観察、観察結果の考察を通して、身近な自然への関心を高め、植物の体のつくりや働き（なかまをふやすくみ）について理解させるとともに、観察の仕方や顕微鏡の使い方、観察結果のまとめ方を身に付けさせる。 中間試験 80点以上得点者 80%			
標準テスト等の目標				
月	単元・題材	主たる指導項目	主な評価規準 関心・意欲・態度 思考・判断 技能・表現 知識・理解	主な評価方法
4	身のまわりの生物を観察しよう	水の惑星地球	校庭や学校周辺の生物に関心をもち、意欲的に調査・観察を行なおうとする。 生物の観察を行い、観察した生物の種類、植物の生育状況による相違を生育環境から考察して、その要因を見出すことができる。 顕微鏡やルーペなどの観察器具の基本操作ができる。 観察記録の取り方やスケッチの仕方などを習得する。 自らの考えを盛り込んだ観察報告書などの作成やその発表ができる。 いろいろな生物がさまざまな場所に生活していることや、環境によって生育する植物の種類や生育状況が光と水の量に関係していることを理解する。	行動観察（顕微鏡観察場面） 発言・レポート 発言・行動観察 発言・行動観察 発言・発表、観察レポート
		野外観察に出かけよう		
		観察（顕微鏡の使い方）		
		レポートの書き方と発表の仕方		
5	1. 植物の世界 (1) 花のつくりとはたらき	植物の生活とからだのしくみ	いろいろな花のつくりに関心をもち、意欲的に花のつくりの観察を行なおうとする。 花のどの部分が果実や種子になるのかについて興味をもち、意欲的に調べようとする。 裸子植物の花に関心をもち、意欲的に調べようとする。 花のつくりの共通点や相違点を見出すことができる。 果実や種子のでき方を花のつくりと関連付けて説明できる。 花のつくりの観察結果をわかりやすくまとめたり、発表することができる。 観察の目的にあった観察器具を使用することができる。 被子植物の花の基本的なつくりが説明できる。 めしべの子房が果実になり、胚珠が種子になること、花がなかまをふやすための器官であることが説明できる。 被子植物と裸子植物の花のつくりの違いと共通点を説明できる。	行動観察・ワークシート 行動観察・ワークシート 行動観察・ワークシート 行動観察・ワークシート 発言・発表、確認テスト
		花は何のためにさくのか		
		いろいろな花のつくりを調べよう【観察】		
		子房、胚珠、受粉、果実、種子、被子植物		
		マツはどのようにしてふえるのか		
	(2) 葉のつくりとはたらき	葉のつくりはどのようにになっているか【観察】	蒸散の役割を推測できる。 蒸散の働きについて説明できる。 水の移動を中心にして、植物の体のつくりを理解できる。 植物の葉のつき方について、その共通性や相違点を興味をもって調べようとする。 光合成と植物の体のつくりの関係が説明できる。	行動観察・ワークシート 行動観察・ワークシート 行動観察・ワークシート 行動観察・ワークシート 発言・発表、確認テスト
		葉のつくりを調べよう【観察】		
		葉脈、細胞、葉緑体、気孔と蒸散		
		養分をどのようにしてつづけているのか【実験】		
		1学期中間試験		
指導方法の工夫改善等	問題解決的な学習の推進（課題設定、課題解決に向けた小グループによる観察の計画・実施、結果のまとめ・考察等の学習過程重視）、観察カードの活用（学校周辺の生物観察）、学校周辺生物地図作成 ワークシートの活用、観察レポート（自己評価付）の作成			
課題・提出物等	課題：観察計画、観察カードの作成（学校周辺の生物観察）、学校周辺生物地図作成 提出物：観察レポート（観察後）、授業ノート（中間試験日）			
未到達者への対応	中間試験後に、放課後2時間の補充学習を行い、その後再テストの実施			
総合的な学習の時間、道徳（教育）、特別活動等との関連等	特別活動：学校周辺生物地図を作成し、学級発表、学級展示につなげていく。 総合的な学習の時間：理科で育まれる「科学的な見方や考え方や、問題解決的な学習の推進（目的意識をもった実験・観察の取組み等）によって培われる問題解決の能力 総合的な学習の時間における課題の発見、設定、課題解決に向けた活動計画の作成、結果の分析・考察等の力につなげる			

福山中・高等学校 中高一貫シラバス（期間指導項目・評価）

教科	理科	科目	期間	1学期前半（中間試験）
中高・学年	中学校・1年	授業時数 期間/年間	18 / 105	教科書
副教材 1	理科グラフィック資料集(新学社)	副教材 2	実力錬成キスト 中学理科1(文理)	副教材 3
				理科1年 進めどめ(1,2分冊)(五洲書房)

到達度目標 (含定期テスト)		身近な植物についての観察, 実験を通して, 植物の体のつくりと働き(光合成, 呼吸, 蒸散)を理解させ, 植物が体のつくりの特徴に基づいて分類できることや, 植物の種類やその生活について理解させる。 発展的な学習として, シダ植物, コケ植物, ソウ類の簡単な体のつくりや生活をとらえさせるとともに, 植物の起源から進化の概要を理解させる。 身近な事象・現象についての観察を通して, 光の規則性(反射)について理解させる。 期末試験80点以上80%		
標準テスト等の目標				
月	単元・題材	主たる指導項目	主な評価規準 関心・意欲・態度 思考・判断 技能・表現 知識・理解	主な評価方法
5 6	(2) 葉のつくりとはたらき	中間試験の復習, 光合成に二酸化炭素が必要なことを調べる【実験】 植物は呼吸をするのか【実験】 単元のまとめ	植物も呼吸を行なっていることに関心をもち 呼吸と光合成の関係について知ろうとする。 光合成の実験で, 適切な薬品や器具などを使って実験を設定するなどの基本操作ができる。また, 観察・実験レポートなどで自分の考えを表現できる。 光合成と呼吸の働きを理解できる。 植物のつくりと働きをについて総合的に説明できる。	発言 発言・確認テスト 発言・行な観察
	(3) 根と茎のつくりとはたらき	水や養分の通り道はどのようなつくりになっているか 茎のつくりとはたらき 道管, 師管, 維管束 植物のつくりとはたらき	根の様子が植物によって違うことや, 茎の断面の違いに興味をもち, 積極的に調べようとする。 葉の表面や断面の観察を積極的にこなそうとする。 根の様子和茎の維管束の並び方に関係があることを考察することができる。 根や茎の切片, 葉の表皮のプレパラートをつくり, それらを観察できる。 根の様子和茎のつくり, 葉脈が植物の種類によって異なることを, 例をあげて説明できる。また, 葉の断面や表皮のつくりについて説明できる。 道管や師管の役割が説明できる。	発言・行な観察 発言・行な観察 行な観察・ワークシート 行な観察・ワークシート 発言・確認テスト
7	(4) 植物のなかま	種子植物のなかま分け 植物の分類 <葉・種子をつくらぬ植物(シダ植物, コケ植物)> <葉・種子をつくらぬ植物(ソウ類), 植物の起源と進化> 単元のまとめ	被子植物の体の特徴を積極的に発表し, なかま分けを行なおうとする。 関心をもち, いろいろな植物をその特徴にもとづいてなかま分けしようとする。 いろいろな植物を整理し, 適切な観点によって分類することができる。 被子植物を体の特徴にもとづいて2つのなかまに分けることができる。 種類のわからない植物を観察し, その特徴を手がかりに, 名前を調べることができる。 双子葉類・単子葉類の根・茎の維管束・葉脈・花の特徴を説明することができる。 植物を分類するときの手がかりとなる適切な観点をあげることができる。 シダ植物, コケ植物, ソウ類の簡単な体のつくりや生活について理解できるとともに, 植物の起源から進化の概要を説明できる。<発展>	発言・行な観察 発言・行な観察 行な観察・確認テスト 発言・確認テスト 発言・発表・確認テスト 確認テスト
	1. 身のまわりの現象 (1) 光の世界	探究のあしあと ものが見えるのはどうしてか 光は鏡に当たるとどのように反射するか【実験】 1学期期末試験	光に関する現象に興味・関心をもち, 興味をもった現象を自分で再現したり, 万華鏡を製作しようとする。 光線を利用して, 光が反射するときの規則性を見出すことができる。 鏡の置き方による像の見え方の違いを光の反射の規則性を用いて説明できる。 光源装置を正しく使うことができる。 光が反射するときの規則性を実験から見出すことができる。 実験レポートの基本的な書き方を習得する。 光は直進する性質があること, 光の反射の規則性を説明することができる。 いろいろな物体が見える理由を, 光の反射のもとに説明できる。	行な観察 行な観察・実験レポート 行な観察・実験レポート 行な観察 行な観察・実験レポート 発表・実験レポート 発表・実験レポート
指導方法の工夫改善等	問題解決的な学習の推進(課題を解決していく理科の進め方やレポートの書き方の学習, 実験計画書の作成(光合成)小グループによる実験・観察), ワークシートの活用, 実験・観察レポート(自己評価付)の作成			
課題・提出物等	課題: 実験計画書の作成(光合成) 提出物: 実験・観察レポート, 授業ノート(期末試験日)			
未到達者への対応	期末試験後に, 放課後2時間の補充学習を行い, その後再テストの実施			
総合的な学習の時間, 道徳(教育), 特別活動等との関連等	総合的な学習の時間: 理科で育まれる「科学的な見方や考え方」や, 問題解決的な学習の推進(目的意識をもった実験・観察の取り組み等)によって培われる問題解決の能力 総合的な学習の時間における課題の発見, 設定, 課題解決に向けた活動計画の作成, 結果の分析・考察等の力につなげる			

福山中・高等学校 中高一貫シラバス（期間指導項目・評価）

教 科	理 科	科 目	期 間	2 学期前半（中間試験）
中 高 ・ 学 年	中学校・1年	授業時数 期間/年間	20 / 105	教 科 書 東京書籍
副 教 材 1	理科グラフィック資料集(新学社)	副 教 材 2	実力練習テキスト 中学理科1(文理)	副 教 材 3 理科1年 進めど(1,2分冊)(五光書)

到達目標 (含定期テスト)		凸レンズの働きについての実験を行い、物体や像の位置及び大きさの関係を見出させる。 発展的な学習として、光と色の関係、赤外線、紫外線、X線、電波や電磁波の基礎的な性質を理解させる。 実験を通して音の規則性や力（力、圧力）の性質を理解させるとともに、日常生活と関連付けて科学的にみる見方や考えを養う。 中間試験80点以上得点者80%		
標準テスト等の目標				
月	単元・題材	主たる指導項目	主な評価規準 関心 意欲 態度 思考 判断 技能 表現 知識 理解	主な評価方法
8	1. 光・音・力 (1) 光の性質	光は水面に当たるとどのように進むか【実験】	光についての事象に関心をもち、光の反射・屈折や凸レンズの働きを調べる実験をすすんで行い、それらの事象を日常生活と関連付けて考察したりしようとする。 光の反射・屈折や凸レンズの働きを調べる方法を考えることができる。 実験結果から光の反射・屈折の規則性を見出すことができる。 実験結果から凸レンズによる像のでき方の規則性を見出すことができる。 光の反射・屈折を調べる観察・実験についての基本操作を行い、わかりやすく正確な記録をとることができる。 凸レンズの働きを調べる実験についての基本操作を行い、わかりやすく正確な記録をとることができる。 光の性質の実験レポートを作成し、わかりやすく発表することができる。 実験を通して、光の反射や屈折の規則性を理解し、知識を身につける。 実験を通して、凸レンズによる像のでき方の規則性を理解し知識を身につける。	発言・行動観察
		空気と水などの境界での光の進み方【実験】 光の屈折、入射角、屈折角、全反射 凸レンズを通った平行光線の進み方、焦点と焦点距離 凸レンズによってできる像の特徴【実験】 実験のまとめ、夏休みの課題（科学賞作品）提示 <発展>光と色の関係、赤外線、紫外線、X線		行動観察 ワークシート ワークシート 行動観察
9	(2) 音の世界	音の発生と伝わり方	音の発生の仕方や音の伝わり方、音の速さや音の高低や大小について関心をもち、意欲的に調べようとする。また、それらの事象を日常生活と関連付けて考察しようとする。 真空中では音が伝わらないことから、空気が音を伝えることに気づく。 光と音が伝わる時間のずれをもとに、音が伝わる速さを求める方法を説明できる。 実験結果から音の高さや大きさが何に関係するか考察することができる。 真空中では音が伝わらないことを、実験で確かめることができる。 音の大きさや高さが振動の何に関係しているかを、実験によって調べることができる。 音の発生や音を伝えるものや空気中を伝わる音のたいの速さを理解できる。 実験を通して、音の高低、大小を決めているものを理解できる。	発言・行動観察
		音の大きさや高さや物体の振動との関係【実験】 実験のまとめ		発言・行動観察 ワークシート 行動観察 行動観察
10	(3) いろいろな力の世界	物体にはたらく力を見つけよう	物体に圧力を加えたときの様子、2力のつりあい、圧力などの実験をすすんで行い、力学的事象に関心をもちたり、それらの事象を日常生活と関連付けて考察しようとする。 物体に力を加えたときの様子、2力のつりあい、圧力などについて調べる方法を考え、実験などを行い、規則性を見出す。 実験結果から2力のつりあいの条件や空気の重さの求め方、圧力の求め方などを考察することができる。 物体に力を加えたときの様子、2力のつりあい、圧力などの実験を行い、基本操作を習得するとともに、記録の仕方などを身につけている。 自らの考えを導き出した実験レポート（報告書）をわかりやすく正確に作成したり、発表したりすることができる。 実験を通して、力の単位や力の働き、2力のつりあう条件、圧力、空気の重さと大気圧などの基本的な概念や原理・法則を理解し、知識として身につける。	発言・行動観察
		重力、重さ		発言・行動観察
		力を表すにはどうしたらよいか		発言・行動観察
		力の大きさや向きを表し方		発言・行動観察
		物体に力がはたらくても動かないのはどんなときか【実験】		発言・行動観察
		垂直抗力、摩擦力		発言・行動観察
		面に力がはたらくとどうなるか【実験】		発言・行動観察
		大気圧		発言・行動観察
		単元のまとめ（定着状況の確認）		行動観察
		2学期中間試験		実験レポート 発表・発表
指導方法の工夫改善等	問題解決的な学習の推進（課題解決設定、課題解決に向けた小グループによる実験の計画・実施、結果からのまとめ・考察等の学習過程重視）、 ワークシートの活用、観察レポート（自己評価付）の作成、			
課題・提出物等	課 題：夏休みの科学研究課題（科学賞作品等）、夏休みの学習課題（1学期学習内容の復習） 提出物：実験レポート（実験後）、授業ノート（中間試験日）			
未到達者への対応	中間試験後に、放課後2時間の補充学習を行い、その後再テストの実施			
総合的な学習の時間・道徳（教育）、特別活動等との関連等	*夏休み科学研究作品は県科学賞に出品 総合的な学習の時間：理科で育まれる「科学的な見方や考え方」や、問題解決的な学習の推進（目的意識をもった実験・観察の取組み等）によって培われる問題解決の能力 総合的な学習の時間における課題発見、設定、課題解決に向けた活動計画の作成、結果からの分析・考察等の力につなげる			

福山中・高等学校 中高一貫シラバス（期間指導項目・評価）

教 科	理 科	科 目	期 間	2 学期後半（期末試験）
中 高 ・ 学 年	中学校・1 年	授業時数 期間/年間	2 2 / 1 0 5	教 科 書 東京書籍
副 教 材 1	理科グラフィック資料集(新学社)	副 教 材 2	実力検定テキスト 中学理科1(文理)	副 教 材 3 理科年 進めど(1,2期)(五光書房)

到達度目標 (含定期テスト)		身の回りの物質の性質を様々な方法で調べ、固有の性質と共通の性質を見出させるとともに、実験器具の操作、記録の仕方等の技能を身に付けさせる。 物質の状態変化に、温度、体積、質量との関係を理解させる。 気体の性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を見出させるとともに、気体発生法や捕集法などの技能を身に付けさせる。 物質が水に溶ける様子の観察や水溶液の中では溶質が一樣に分散していること及び水溶液から溶質を取り出す方法を見出させる。 期末試験 80点以上得点者 80%		
標準テスト等の目標				
月	単元・題材	主たる指導項目	主な評価規準 関心・意欲・態度 思考・判断 技能・表現 知識・理解	主な評価方法
10	2 身のまわりの物質 (1)身のまわりの物質とその性質	中間試験の復習 導入：物質と物体を区別するには	物質の密度や電気の通りやすさなどに関する事象・現象に関心を持ち、すすんで実験を行なうとともに、それらの事象を日常生活と関連付けて考察しようとする。 性質を調べた物質を、その結果から科学的に考察できる。 物質の密度や電気の通りやすさなどについて実験を行い、実験の基本操作や記録を行うことができる。 物質の密度や電気の通りやすさなどについて実験を行い、物質には共通の性質があることを見出し、それに基づいて分類できる。 気体の発生と性質などに関する事象・現象に関心を持ち、すすんで実験を行なうとともに、それらの事象を日常生活と関連付けて考察しようとする。 気体の性質を調べた実験結果を、他の方法で発生させた実験結果と比較し、同じかどうか判断できる。 気体の発生と性質について実験を行い、実験の基本操作や記録を行うことができる。 気体の発生と性質について述べるができる。また、気体の性質と捕集法の関係について説明できる。	発言・行動観察 発言・行動観察 発表・ワークシート 観察・ワークシート 発表・観察 実験レポート
		金属と金属でない物質を区別するには【実験】 金属どうしを区別するには 白い粉末状の物質を区別するには【実験】 有機物・無機物 目に見えない気体を区別するには【実験】 気体の性質 気体の性質と集め方		
11	(2)水溶液の性質	物質が水にとけるとはどのようなことか る過のしかた【実験】 溶質、溶媒、溶液 水にとけている物質はとり出せるか 水にとけた物質をとり出そう【実験】 酸性、アルカリ性とはなにか【実験】 酸性とアルカリ性の水溶液を混ぜ合わせるとどうなるか【実験】 中和、塩 小単元のまとめ(定着状況の確認)	身の回りにある水溶液に興味を持ち、それらにとけている物質について意図的に調べようとする。また、一定量の水にとける物質の量は、水温とどのように関係しているかを意図的に調べようとする。 一定量の水にとける物質の量と温度の関係を表すグラフから、水溶液にとけている物質を取り出す実験方法を企画できる。 水溶液にとけている物質を取り出す実験を正しく安全にできる。 「溶質」「溶媒」の意味について、例をあげて説明できる。 一定量の水にとける物質の量について、説明できる。 身のまわりの酸性やアルカリ性の水溶液にはどのようなものがあるか調べようとする。 中和によってできる塩の種類を顕微鏡観察から推定できる。 酸と中和の実験を行い、実験・実験器具の基本操作や記録を行うことができる。 酸・アルカリにはそれぞれに共通する性質があり、酸とアルカリを混ぜると塩が生成されることなどを理解し、例をあげて説明することができる。	発言・行動観察 発言・行動観察 発表・ワークシート 発表・ワークシート 発表・ワークシート 発表・ワークシート 発表・ワークシート
12	(3)物質の姿と状態変化	物質はどのように姿を変えるのか 物質が状態変化するとき体積や質量はどうなるのか【実験】 物質が状態変化する温度は決まっているか 2 学期期末試験	物質の状態変化に関する事象・現象に関心を持ち、すすんで実験を行なうとともにそれらの事象を日常生活と関連付けて考察しようとする。 物質の状態変化について調べる実験から、科学的に考察することができる。 物質の状態変化について実験を行い、実験の基本操作や記録を行うことができる。 物質の状態変化について実験を行い、自らの考えを導き出した実験レポート(報告書)を作成したり、発表したりすることができる。	発言・行動観察 発表・ワークシート 発表・ワークシート 発表・実験レポート
指導方法の工夫改善等		問題解決的な学習の推進<実験計画書の作成(水溶液から溶質の抽出):課題を解決していくため、生徒自ら実験方法を考え計画小グループによる実験>,ワークシートの活用,実験レポート(自己評価付)の作成		
課題・提出物等		課 題:実験計画書の作成(水溶液から溶質の抽出) 提出物:実験レポート,授業ノート(期末試験日)		
未到達者への対応		期末試験後に、放課後2時間の補充学習を行い、その後再テストの実施		
総合的な学習の時間、道徳(教育)、特別活動等との関連等		総合的な学習の時間:理科で育まれる「科学的な見方や考え方」や、問題解決的な学習の推進(目的意識をもった実験・観察の取組み等)によって培われ問題解決の能力 総合的な学習の時間における課題の発見、設定、課題解決に向けた活動計画作成、結果の分析、考察等の力につなげる		

福山中・高等学校 中高一貫シラバス（期間指導項目・評価）

教科	理科	科目	期間	3学期（学年末試験）
中高・学年	中学校・1年	授業時数 期間/年間	31 / 105	教科書
副教材 1	理科グラフィック資料集(新学社)	副教材 2	実力錬成キスト中学科1(文理)	副教材 3
				新興出版啓林館 副教材 3 副教材 3 週のみ(1,2,3)副(5,6)副

到達度目標 (含定期テスト)		実験を通して、物質が融点・沸点を境に状態が変化することや、そのときの体積や質量の変化を理解させる。 大地の活動の様子や身近な地形、地層、岩石などの観察を通して、地表に見られる様々な事物・現象を大地の変化と関連付けてみる見方や考え方を養う。 学年末試験 80点以上得点者 80%		
標準テスト等の目標				
月	単元・題材	主たる指導項目	主な評価規準 関心・意欲・態度 思考・判断 技能・表現 知識・理解	主な評価方法
12 1	(4) 物質の姿と状態	期末試験の復習	沸騰を測定する実験を行い、記録することができる。 物質の状態変化を調べる実験を行い、物質が融点や沸点を境に状態が変化することや、そのときの体積や質量の変化について説明することができる。	行・観察・ワークシート 確認テスト
		エタノールが沸騰するときの温度を調べよう【実験】		
		沸点、融点		
		エタノールでの溶解を調べて、出てくると調べる【実験】		
		小単元のまとめ(定着状況のまとめ)		
		単元のまとめ(定着状況の確認)、冬休みの課題提示		
2学期の復習				
2	2. 大地の変化 (1) 火をふく大地	火山の形は、何によって決まるか	日本や世界の火山の噴火に関心を示し、防災についても積極的に考えようとする。 身近な岩石に関心を示し、その組織や鉱物組成を調べようとする。 火山噴火の様子から、マグマの性質を推測することができる。 火成岩の組織の違いから、その岩石の冷え固まり方の違いを推測することができる。 火山噴火の写真などから、火山活動の性質を説明することができる。 火成岩の組織や鉱物を観察し、その特徴をスケッチで示すことができる。 火成岩の組織の観察から、火山岩と深成岩を区別することができる。また火成岩の色の違いが造岩鉱物の違いであることをとらえられる。 火山岩と深成岩の特徴やその成因、火山噴火の原因とプレートの動きと関連などについて理解できる。	発言・行・観察 発言・ワークシート 発言・ワークシート 発言・ワークシート 行・観察・ワークシート 観察・ポート 発言・確認テスト 発言・発表・確認テスト
		火山灰から何がわかるか【観察】		
		火成岩はどのようなつくりをしているか【観察】		
		石基、斑晶、斑状組織、等粒状組織		
		小単元のまとめ(定着状況の確認)		
(2) ゆれる大地	地震のゆれはどのように伝わるのか	過去に経験した地震について、その震度などを推測しようとする。 日本付近は地震が起こりやすい所であることを実感する。 地震のゆれの強さを地震の規模と関連させて考えることができる。 地震の原因をプレートの動きと「関連させて考えることができる。 地震計の記録から、地震のゆれの特徴を見つけ出すことができる。また作図で震央を求めたり震度分布図を書くことができる。 地震のゆれは地震計で記録されることを知り、その記録の特徴を理解することができる。 地震のゆれ方と震源からの距離との関係を理解することができる。	発言・行・観察 行・観察・ワークシート 発言・ワークシート 発言・ワークシート 行・観察・ワークシート 発言・ワークシート	
	地震のゆれの伝わり方を調べよう【実習】			
	震源からの距離と震度			
	地震はなぜ起こるのか			
	地震とプレート			
	小単元のまとめ(定着状況の確認)			
(3) 地層から読みとる大地の変化	地層はどのようにしてつくられるのか	地層及びこれを構成するたいせき岩などの観察に積極的に取り組み、仮説を立てて追求し、規則性を見つけようとする。 たいせき岩を観察した結果から、その成因やたいせき当時の環境を推測することができる。 地層を構成する砕屑物や地層に含まれる化石(示相化石、示準化石)から、地層が堆積した当時の環境や大まかな生成年代を推測することができる。 たいせき岩を観察してその特徴を調べることができる。 地球表面をおおうプレートが大陸を移動させていることを知る。 たいせき岩の特徴が、その成因やたいせき当時の環境を考える手がかりになることを知る。 地層の重なり方や規則性、地層のたいせき環境、地層の年代について理解することができる。	行・観察 行・観察 行・観察・ワークシート 行・観察・ワークシート 行・観察・ワークシート 行・観察・ワークシート	
	地層の広がり、地層、柱状図			
	地層をつくるものは何か【観察】			
	地層から何がわかるか			
	身近な大地の歴史を調べよう			
	地層から大地の変化を読みとろう【観察】			
3	(4) 大地が動く	大地が動くすがた(断層)	地震によって土地が動くことに気づき、それを観察しようとする。 身の回りの断層や活断層を、防災の立場から、関心をもって調べよとする。	行・観察 発言・行・観察
		大地が変動する所(プレートの動き)		
		単元のまとめ(定着状況の確認)		

	学年末試験 学年末試験の復習，2分野の復習 1分野の復習	地震・火山の分布に関心を示し，それをプレートの動きからとらえようとする。 大地の変動によってどんな地形ができるかを考えることができる。 大地の変動をプレートの動きから考えることができる。 写真や地形図などを見て，その地形の特徴を説明することができる。 プレートの動きが大地の動きに関係していることを理解できる。 断層のでき方と活断層がどんなものであるか説明できる 大山脈，海嶺などの大地形とプレートの動きとの関連を理解できる。	着目 着目 着目 着目 着目 着目
指導方法の工夫改善等	問題解決的な学習の推進（課題設定，課題解決に向けた小グループによる観察の計画・実施，結果のまとめ・考察等の学習過程重視），ワークシートの活用，観察レポート（自己評価付）の作成，観察記録（地震計の記録）をもとに実習（地震のゆれの伝わり方の考察）		
課題・提出物等	課題：冬休みの学習課題，冬休みの研究課題（「酸性雨」についての調べ学習） 2学期の復習時間での発表 提出物：観察レポート（観察後），授業ノート（学年末試験日）		
未到達者への対応	学年末試験後に，放課後2時間の補充学習を行い，その後再テストの実施		
総合的な学習の時間，道徳（教育），特別活動等との関連等	特別活動等：冬休みの研究課題の発表，学級展示 総合的な学習の時間：理科で育まれる「科学的な見方や考え方」や，問題解決的な学習の推進（目的意識をもった実験・観察の取り組み等）によって培われる問題解決の能力 総合的な学習の時間における課題の発見，設定，課題解決に向けた活動計画作成，結果からの分析・考察等の力につなげる		

